

「モノとココロを産地直送」 食農交流拠点化戦略について 徳島県小松島市 JA東とくしま みはらしの丘 あいさい広場

<取組主体の概要>

- ・所在地 : 徳島県小松島市
- ・取組主体 : JA東とくしま「みはらしの丘 あいさい広場」
(代表者: JA東とくしま組合長 荒井義之)
- ・売上高 : 2020年 1,816,811千円
- ・出荷者数 : 2020年 686名
- ・雇用者数 : 2020年 70人 (臨時雇用を含む。)
- ・URL : <https://www.ja-higashitks.com/aisai/>



【取組概要】

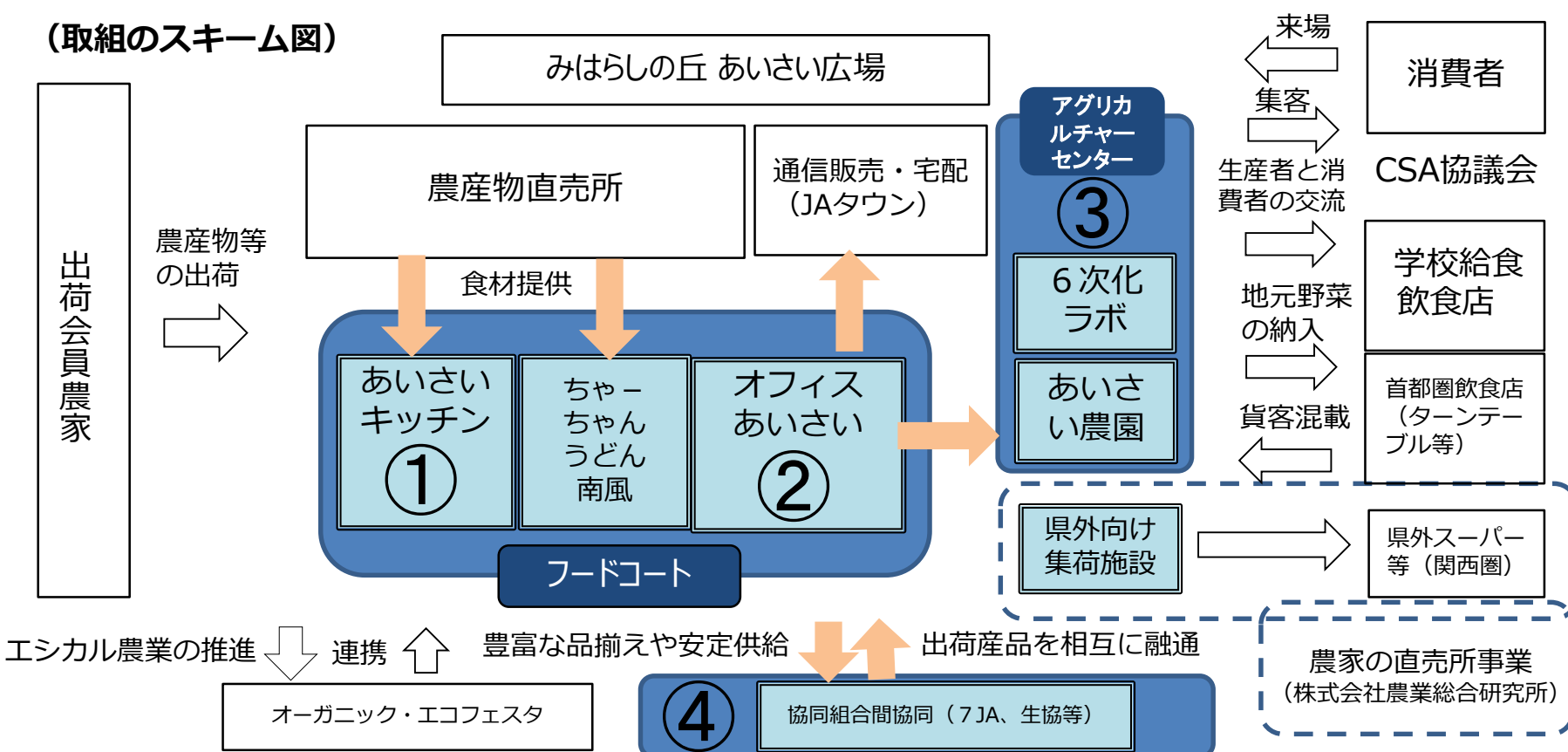
JA東とくしま「みはらしの丘 あいさい広場」は、平成18年3月にオープン。年間売上高は、H18年の6億9千万円からH26年には12億円と拡大。

平成30年4月には、場所を隣接した高台に移転し、地産地消の食堂「あいさいキッチン」などを備えた施設としてリニューアルオープン。旧農産物直売所の施設は、キッチンスタジオや加工製造室、農業研修室などのアグリカルチャーセンターと県外向け集荷施設に生まれ変わった。R2年度の年間売上高は18億1千万円。

現在のあいさい広場は、産直市、レストラン、惣菜工房、ベーカリー、カフェ、フードコート、農園、コワーキングスペースなどが同じ場所に揃いすべての食農体験が一か所で行える総合農業施設として、消費者に新鮮な農産物の提供を行うことはもとより、食と農、そして地域をトータルサポートする様々な取組を行っている。

また、エシカル消費などにも積極的に取り組んでおり、令和2年2月には第10回オーガニック・エコフェスタ2021がオンライン開催された。

(取組のスキーム図)



【取組のポイント】

- ① 直営飲食施設 (あいさいキッチン/あいさいベーカリー)
あいさいキッチン
心地よい空間で美味しいお米と野菜が食べられる定食屋にリニューアル。新たな時代ニーズに合った加工野菜やミールキット等のインストア製造を強化し、新しいレストラン総合施設を目指す。
あいさいベーカリー
農産物の素材を活かした菓子製造とともにカフェではドリンクやスイーツを提供し、6次化ラボ施設で開発・提案するPB加工品「農ある暮らし」のアンテナショップの役割も果たす。
- ② コワーキングスペース「オフィスあいさい」
時代の変化と昨今のコロナ禍での生活様式の激変をイノベーションの機会と捉え、イベントの延期や中止の選択肢だけでなく、オンラインに切り替え、開催を模索し、6次産業化の推進や農商工連携交流、食農ビジネスの創業をサポートしたり、地方と都会をつなぐ取り組みをする。
- ③ アグリカルチャーセンター (6次化ラボ Lab)
昔から続く食文化や地域資源の掘り起こしから始まり、新商品の開発や販路拡大、消費者と農をつなげるための仕組み作りまで、食と農そして地域をトータルサポートするため、「人・モノ・コトづくり」の3つの柱を立て、未来の地域6次産業化をコーディネート。
- ④ 協同組合間協同
県内7JAや生協との連携により、豊富な品揃えや安定供給を実現するためお互いの出荷産品を相互に融通することや、オーガニック・エコフェスタの開催等の取組を実施し、エシカル農業の推進を図る。



【課題とその対処方法】

新型コロナウイルス感染症の対策として、施設内の配置や動線の工夫などに早期の対策を講じたものの、あいさいキッチンのバイキング方式での運営が困難なことから、105席の客室スペースの半分を「オフィスあいさい」の名称で、モニター付き会議スペースやオンライン会議用個室なども備えたシェアオフィスとして活用している。

調理施設についてはHACCPの考え方を取り入れた衛生管理の徹底や惣菜製造、加工野菜(カット野菜)等の二次加工品の製造、ミールキット等の宅配サービスを見据えた新しい商品開発が求められている。今後、直営飲食施設の一元化による業務改善や複数業務をこなす人材を育成するためのシェアキッチン計画し、施設全体にも相乗効果を創出し、活性化する仕組みづくりが課題である。

【今後の展望】

あいさい広場を地域連携販売力強化拠点と位置づけ、農業振興・販売対策・地域振興を着実に実践できるよう集出荷システムの再構築に取り組む。県内外の広域連携について、農総研、JA間連携の試行、貨客混載実験の結果などを踏まえ、今後は出荷・販売手続きの統一化(システム統合を含む。)や直売所間物流の課題等も踏まえ、より強固な連携のもと、これまで以上の豊富な品揃えや安定供給の実践に向けた取組を進めていきたい。オフィスあいさいでは、生産者と消費者の垣根を超え提携するCSA(地域支援型農業)を推進したり、様々な食と農を展開する企業とのコラボレーションやマッチングを図るとともに、ITやネットを活用し、オフライン(リアル産直)からオンライン(EC産直)をシームレスに繋ぎ、情報発信する未来型産直を目指したい。